

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
ハッピー橋本教室		2025年 10 月 1 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		・集団では2部屋の間の仕切りを取り広くして使うなど工夫している。 ・活動や人数によって部屋の大きさを変えられる。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		・職員が平等に支援に入れるよう振り分けがされている。 ・職員の休みが出ても、職員の負担にならない程度になっており適切であると感じる。	利用者さまの状況に合わせて人数調整を行う必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。 また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		・防音機能が付いた個室であり、支援に集中できる環境である。 ・壁の角にはカバーがついていたりと安全に配慮されている。 ・シンプルな空間になっている。	窓がないため、利用者さまの状況・特性に合わせつつ定期的に換気を含めたドアの開閉を行うことで、圧迫感を感じないようにしていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	1	・日々のアルコール消毒を行っている。 空間についても、子どもにあわせた道具や物の配置を行い、空間作りに取り組めている。 ・教室全体が綺麗に保たれるよう分担して清掃に取り組み丁寧に行っている。	・床が滑りやすいため、支援内容によって事故や怪我防止の観点から滑らない工夫をする必要がある。 ・今後も清潔感を保つため、壁や床が汚れた際は都度清掃するよう努めていく。 ・空気清浄機やエアコン等電子機器の清掃を定期的に行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		・空き教室を落ち着く為の場所として設けている。 ・こどもや人数によって部屋を相談し決められている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		目標に向かい業務をしていたり、気付きや振り返りを共有している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・定期的に中間評価面談や家族支援を実施している。 ・全職員で確認し改善策を考える時間を設けている。 ・皆で確認し業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		・職員が意見を言いやすい雰囲気づくりがされている。 ・気付いた点や疑問に思っていることを職員同士で共有し話し合いができています。 ・定期的に職員での会議を実施し、業務改善につなげている。	引き続き職員全員が意見や要望を発信しやすいよう、発信の場を積極的に設けていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		内部による評価により業務改善につなげている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7		・分野ごとに設定されている研修を継続的に受講できる機会がある。 ・毎月様々な研修に参加している。 ・全職員に研修を周知し、受講したいものは受けられるような環境になっている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		・毎回利用者のニーズや個別支援計画の目標、活動記録等を確認し作成している。 ・どんな支援を組むか悩んだ際に、職員同士が相談できる環境になっている為、適切なプログラムが作成できる。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		・毎回丁寧にアセスメントを行っている。 ・担当が振り分けられているので、その担当が適切に行えている。 ・面談で聞いた内容を児童発達支援計画にすり合わせができています。	

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援の中で関わっている職員も会議に参加し、新しい支援計画の検討を実施している。 ・個別支援計画の会議をその日出動している職員が参加する為、話し合いながらそのお子様にとってより良い計画ができています。 ・毎回検討会議を行い、皆で意見を出し合い多角的な視点から検討するようにしている。 ・全職員がこどもの最善の利益を考慮し支援に携わっている。 	職員全員が意見を発信しやすい会議の雰囲気づくりや環境づくりに配慮し、利用者様にとってより良い方向性が検討できるように努めていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> ・支援目標に沿いながら課題を設定し、支援を行っている。 ・毎回個別支援計画を確認して支援を考えることができています。 ・児童発達支援計画が共有されているうえで支援が行われている。 ・支援に入る前にファイルを確認したり、前回支援に入っていた職員に話を聞いたりすることができています。 	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		支援においてねらいを考えながら実施している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	<ul style="list-style-type: none"> ・集団支援では担当する職員間で活動プログラムの共有、相談を行っている。 ・日頃から皆で情報を共有し話し合う環境ができています。 ・その日の担当職員だけでなく、わからない事は他職員に聞きながら決められる。 ・集団支援の際にメインとサブの職員でどのように支援を実施していくのか事前に話し合いをしている。 	集団支援などの活動プログラムの大枠はあるものの、細かい点の立案・計画には至っていないため、適宜話し合いながら状況に合わせた立案・計画を行なえるよう努めていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> ・同じ課題にならないように共有を図っている。また、同じ課題になった場合も目的を持ちながら支援に入ることによって差別化を図っている。 ・常に意識し、活動記録やケース記録を必ず確認するようにしている。 ・固定されないよう、他の職員からそのお子さんがどんな遊びが好きなのかなど支援内容を広げている。 ・決まった職員が支援に入らないようになっている。 	お子さまの特性や状況に合わせて固定化すべきところなどを作った方がよい場合もあるため、職員間で検討していく必要がある。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのニーズや状況、保護者の希望等を考慮し行っている。 ・個別と集団それぞれの主訴が伸ばせるか考えながら支援を実施している。 	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		<ul style="list-style-type: none"> ・毎回確認できている。 ・始まる前に職員会議を行い、連携ができています。 ・朝礼で本日の予定が行われており、集団支援の前にはメインとサブの職員がどう動くのかなどの打ち合わせが行われている。 	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・日々振り返りを行い共有できている。 ・集団支援後には活動の振り返りが行われている。 	全ての活動を共有しているわけではないため、その日の支援でよかったことや反省点等を言う機会を作るなど、共有できる場を設けていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		記録の中にこの遊びが好き、苦手など分かりやすく残されているものもある為、支援を実施する際に改善に繋がる。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		面談を多く行い状況を確認することができている。	

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		園連携を行うことができている。	事業所間連携の実施も予定している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		関係機関連携を積極的に行っている。	医療機関との連携をもっと積極的に行っていけるとよい。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	・個々の強みを発揮できるよう考え、併用や移行に向けたアドバイスを行っている。 ・保護者や園からの希望があれば、園に訪問しそのお子様の情報共有ができている。	併行利用や移行をより意識した支援を行えるよう検討していく必要がある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	3		小学校や特別支援学校等の地域の情報を職員が把握し、情報共有や連携を図っていく必要がある。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	3		児童発達支援センター等地域の情報を職員が把握し、情報共有や連携を図っていく必要がある。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	6		ご利用者様のご希望に合わせて機会を設けていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		・フィードバックの際にご家庭での困りごとや支援の際にできたことなど、お子様の様子をじっくり共有している。 ・フィードバックや面談で話し合うことができていると感じる。	
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		・定期的に保護者に向けた家族支援の情報を提供している。 ・昨年2グループで開催。	今年度も10月から実施するための準備をしている。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に紙と一緒に見ながら確認できている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		・アセスメントや日々のフィードバックで話を聞くことができる。 ・面談の際に困りごとやお子様がどのように成長してほしいかなど意向を確認する機会を設けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		・こちらからもお声がけするようにしている。 ・フィードバックや面談で、お子様の様子を聞く機会を設けている。 ・保護者から要望があった場合に動くのではなく、こちらからも定期的な声掛けを行い、面談の有無を確認している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	3	・保護者会を開催している。 ・きょうだい間での悩みがある家庭には、きょうだい同士で支援に取り組む姿を観察する機会を設けている。 ・茶話会などのイベントで保護者同士でお話できる機会を設けている。	保護者会の実施はまだ定期開催には至っていないため、今後は定期的に交流する場を設けられるように検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	1	・ イベントなどをブログに掲載している。 ・ SNSだけでなく、来所時に予定の確認や活動の概要を説明している。	利用者様への周知も含め、定期的に情報発信できるよう努めていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		都度確認している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		職員と保護者が話をしているのを見るのが嫌なお子様には配慮をして行っている。	引き続きお子様の状況や様子に配慮しながら情報伝達等が行えるよう努めていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5	幼稚園で講演会を行っている。	より地域に根ざした事業運営ができるよう、地域向けのイベントを検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	2		再度マニュアル等の確認を行い、統一した対応ができるようにしていく必要がある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	3		職員の入れ替わりとともに都度訓練を実施できるようにし、それぞれが咄嗟に行動できる体制を作っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7		・ 支援に入る前や子どもの情報が追加された場合は、都度職員間で確認を行っている。 ・ 見学時や契約時に確認している。	利用者様の状況を必要に応じて即座に確認できる仕組みを検討していく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			該当の項目を一括で確認できる仕組みを検討していく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	2	契約時に周知している。	より一層利用者様への周知に努めていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		・ 改善策を話し合い皆で周知し、再発しないよう努めている。 ・ 職員間で予防を話し合う機会がある。	過去に起きた事例などを見直せる機会を設け、再検討し、再発防止に努めていく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		研修の機会が多いと思います。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7		・ 契約時に具体的な例をあげてしっかり説明をしている。 ・ 契約時に説明を行っている。	